

成人 SEIJIN

特集

能登
半島へ



令和6年1月1日16時10分

石川県能登地方の深さ16kmを震源として、マグニチュード7.6の地震が発生。

輪島市と志賀町では震度7を観測。元旦の賑わしい雰囲気は一転、街並みは見るも無残な姿へと変わり果てた。

2024年11月26日時点で、死者は災害関連死を含めて462人、住家被害は全壊が6,437棟、半壊が23,086棟にのぼる。

他の地域のほとんどが1ヶ月足らずで水道の復旧を迎える中、輪島市と珠洲市では5月31日まで断水が続いた。

テレビでは能登半島の現況を伝えるニュースがめっきり減り、国民の関心が徐々に石川県から遠ざかる。

そんな折、大教会長様から石川県への災害救援ひのきしん出動要請が下り、第一次隊が9月に出動。

そこで感じたのは、復興はまだまだ終わっていないということ。それどころかインフラが最低限整備され、やっと復興のスタートラインに立ったに過ぎないということだった。

車を走らせれば、まるで正月から時間が止まったかのように、崩れたままの人家が次々と目に飛び込んでくる。

「とにかく人手が足りない」

「支援を継続的なものにしなければ」

そう心に決めた庄司委員長は、有志の青年会員を集めて第二次隊を結成。11月初頭に出動した。

今号では第二次隊に参加した隊員の所感と、出動の記録を掲載させていただいた。

読者の皆様方には、今号を通して石川県の現状を知っていただき、今後の継続的支援に対して、様々な形でご支援をいただければ幸甚に存じます。

能登半島地震の復興支援ボランティア

広瀬 雅之 (旭波分会)

今回、私自身、人生初の復興支援ボランティアに参加させて頂きました。参加すると決めたのはいいものの、実際に被災地に行くまでは「私が被災地に出向いて良いのだろうか?」「実際の被災状況を目の当たりにすると戸惑うのではないか」という不安や葛藤がありました。

実際に、ボランティアに行かせて頂くと、テレビで報道されていたような、残酷な景色がそのまま残されているような状態で、涙がこみ上げてきました。ボランティアの内容は、半壊状態のお家に上がらせて頂き、ご家族さんの荷物の運び出す作業や、不要なものを捨てる作業をさせて頂きました。ご家族の方の要望に応える難しさを感じながらも、可能な限りそれにお応えさせて頂こうと頑張りました。また、電気や水道が通っていないお家で、ボランティアをさせて頂いたことで、普段不自由なく電気や水道を使わせて頂いている事に、感謝しないといけないと思わせて頂きました。

まだ、手が付けられていないご家庭等も、拝見させて頂くと、もっとたくさんの人と一緒に何度も足を運ばせて頂きたいと改めて思わせて頂きました。

ひのきしんのおかげで

関 旬哉 (高天分会)

私は11月初頭に能登半島青年会災害救援ひのきしんに参加させて頂きました。普段から大教会のひのきしんや自教会のひのきしんに参加させて頂いていますが、遠方でのひのきしんは今回が初めてでした。

金沢から能登半島へ移動する道中の変わり果てていく道路、倒壊した家屋、ぐしゃぐしゃになった車、届いていないライフライン、震災から10ヶ月も経って、実際に自分の目で見た被災地は、ニュースで見るとよりも悲惨な状況で、とても胸が痛み、言葉が見つかりませんでした。ひのきしん現場は珠洲市蛸島町で、被害にあった民家の不要な物を家主の方に許可を得ながら処理するという作業でした。不要な物はトラックの荷台に種類ごとに乗せ、災害ゴミ仮置き場まで持って行くのですが、道路が陥没しているところや隆起しているところを通るため、かなり危険な道でした。また、あいにく雨の中の作業であったため、足元はぬかるみ、手元も滑りやすく大変でした。家主の方は被災し、心を痛めていらっしゃるにも関わらず、そんなことを感じさせ

ないように私たちに明るく接して下さりました。皆と勇んでひのきしんに取り組み、無事に作業を終えることができました。最後には家主の方が「雨の中、作業をしてくれてありがとう。本当に助かりました」とおにぎりを握って持って来て下さり、ご馳走になりました。あの味は一生忘れられない味です。喜んでいただけるとてもやりがいを感じました。

仲間とのひのきしんをし、現地の方の温かみを感じる中で、最近の自分は楽な方へと怠けてしまっている。自分かわいい心であったと反省しました。私を変えくたさるために親神様がお与えくださった機会であると心に収め、もっと低い心で通らせていただこうと思いました。

秋季大祭真柱様のお言葉に、「三年千日二年目、元日から大地震が発生し、後半に入って豪雨災害にも見舞われ、同じ地に形は違えど、二度もお見せになられたのは、私たちの年祭に対する取り組みが思召にお応えするにはまだまだだ、ということなのだと思う。」とお話がありました。

今年二度もお見せいただいた厳しい姿から自身にできることは何なのか、成人できるようにするにはどうしたらいいのかと思案していた時、第3回よふぼく一斉活動日の御本部からのビデオメッセージを視聴しました。

メッセージの中には「人さん助けるのやで」(逸話篇 百)の一文が引用されていました。「『どうしたら、人さんが救かりますか。』と尋ねられたのに対し教祖は「自分が救かったことを人さんに真剣に話さしていただくのやで。」と仰せになった。』という一文です。

今回のひのきしんで被災者の方を微力ながらおたすけさせて頂き、また、自分を見つめ直すことができるよう助けて頂きました。今回のひのきしんのことを多くの人に真剣にお話しさせて頂いていただこうと思います。そしてより一層、ひのきしんに励ませていただこうと思います。

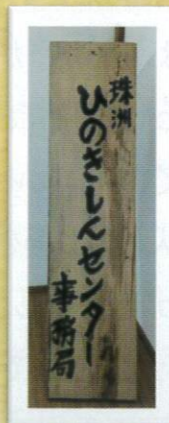
来年六月の旭日大教会創立130周年記念祭では青年会委員としてまた、自身の信仰人生の中で初めて迎える大きな節目であります。そして、教祖140年祭まであと1年、三年千日締めくくりの年です。気を引き締め直し、悔いの残らないよう、自分自身成人させて頂きたいです。

能登半島災害救援ひのきしん 動向表

～11月1日(金)～

23:30 旭日大教会 集合

23:55 教会本部 参拝



～11月2日(土)～

8:15 珠洲ひのきしんセンター事務局
實立(ほうりゅう)分教会 到着

8:30 珠洲ひのきしんセンター宿营地
北乃州(きたのしゅう)分教会
到着

9:00 災害救援ひのきしん 出動



16:00 災害救援ひのきしん 終了

19:00 金沢市内「ゆめの湯」に到着

疲れた心身を入浴と食事で癒す隊員たち。発災から10カ月が経っても、凄惨な状況が残されている現場に心を痛めつつも、この節を我が事として捉え、「また来よう!」と決意を語り合いました。

～11月3日(日)～

8:15 「ゆめの湯」出発

9:00 天理教石川教務支庁
布教の家 石川寮 到着

9:20 神名流し & 路傍講演
@金沢駅周辺



11:10 昼食

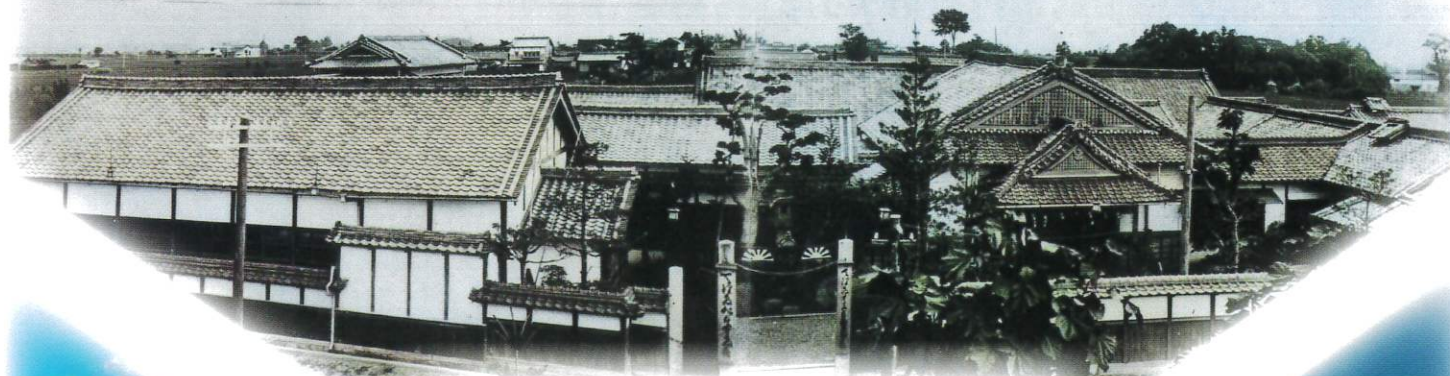
12:30 金沢市内を出発

17:30 旭日大教会 到着
参拝 & 会長宅ご挨拶 & 片付け

19:00 解散



皆様方のお陰をもちまして、事故・けが無くつとめさせていただきました。誠にありがとうございました。



創立
130
周年記念祭

旭日の歴史に想いを馳せて

2025 (令和7年)

6月1日(日)

9:00

10:00

13:00

お迎え行事
開式
真柱様お言葉
おつとめ
直会

天理教旭日大教会